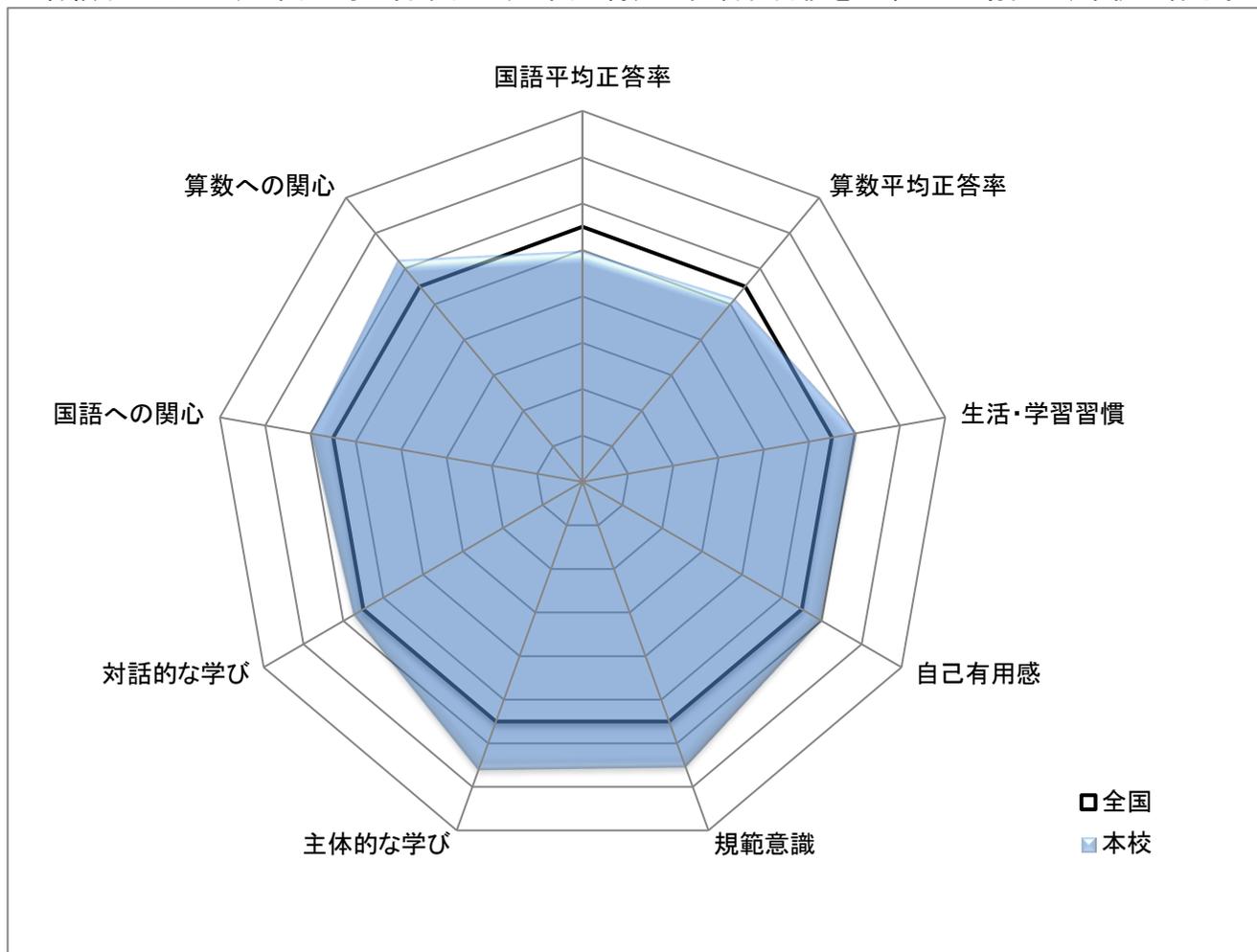


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

国語科では、平均正答率は60%で、全国平均を7.2%下回った。「言葉の特徴や使い方に関する事項」「話すこと・聞くこと」の正答率が特に低く、全国より10%以上、下回っている。問題形式が「記述式」の正答率も全国から10%下回った。
算数科では、平均正答率は58%で、全国平均を4.5%下回った。「図形」の領域の平均正答率は全国より4%下回っている。「思考・判断・表現」の観点の正答率も全国より6%下回っている。問題形式が「記述式」の正答率も全国から7%下回った。

《授業改善のポイント》

国語科では、児童が自ら考え深めていくような授業展開を重視し、思考力、表現力を育てていく。話すこと・聞くことを意識して、友達に考えを伝えたり、友達の話している内容を理解して、質問したりするような活動を多く取り入れる。また、自分の考えを少しでもノートに書き、友達の考えを取り入れながらノートにまとめていくように指導し、児童の書く力を高めいく。
算数科では、立式の根拠を図や数直線などを活用して説明できるように、毎時間の授業で意識させる。ノートに自分の考えを書くときに、相手に説明が伝わることを意識して、整理してまとめさせる。習熟度別の少人数指導を継続し、児童の実態に合わせた授業展開を工夫し、個に応じた指導を行っていく。

《チャートの特徴》

国語や算数への関心は、基準より少し上回っているが、どちらも平均正答率は低い。関心はあるものの、学習している内容がこれからの生活にどのように役に立つかを具体的にイメージできていないため、粘り強く学習に取り組み、課題を解決していこうという前向きな姿勢が足りず、問題の回答率及び正答率の低さに直結していると考えられる。
生活・学習習慣については、生活面で肯定的な回答が全国より多く、生活習慣が確立されつつあると思われる。一方で、学習面については肯定的な回答が全国より少なく、課題である。児童が自らの学習状況を把握し、学習計画を立てられるように、家庭学習と連携し、家庭での学習習慣の確立を目指していきたい。そして、学校でも児童が自ら学び、考えを深めるような授業展開を考え、実施していく。

《家庭・地域への働きかけ》

全国学力・学習状況調査の結果をホームページ等で公表し、家庭学習の習慣化等について協力を促していく。学習用タブレット端末を活用した家庭学習の方法についても情報を発信し、児童の苦手に合わせた家庭学習の取り組みを意識してもらい、協力を仰ぐ。